

同 時 開 催

しながわカブが 品川蕪 上がるエール お披露目式

江戸野菜「品川蕪」を使ったクラフトビール
〈しながわカブが上がるエール〉が誕生！

品川区と城南信用金庫は、2024年6月26日に、地域の課題に迅速かつ適正に対処し、産業振興による経済の持続発展および品川区民サービスの向上、地域の活性化を図ることを目的に包括連携に関する協定書を締結しました。

この包括連携協定締結を記念して、江戸東京野菜の「品川蕪」を原料としたクラフトビールの醸造となりました。

令和6年10月17日、東京・羽田にある「よい仕事おこしプラザ」で発注式を開催し、12月22日「品川蕪品評会」にて、めでたくお披露目の日を迎えます。



協力  城南信用金庫

江戸時代から復活した品川蕪

品川蕪は、文化元年（1804年）、農事などについて編纂させた博物誌『形成図説』に描かれ、品川宿を代表する野菜だったと推測されます。江戸開府以前から品川は存在していますが、品川蕪の品川への入植経路は諸説あり定かではありません。

春を迎える保存野菜の品川蕪（長かぶ）は、献上野菜として、また多くが漬物にされていたと言われ、江戸の町民にも喜ばれていたことでしょう。

江戸時代には少しずつ消えていった野菜の一つで、昭和初期頃までは少々ながら存在していたようですが、戦前には完全に消えてしまいました。

近年の江戸野菜復活の動きに伴い、2006年より品川蕪の痕跡を探し始め、2年後の2008年、見事品川に復活をもたらしました。現在では農地を全て無くした品川区ではありませんが、地元小学校とともに食育活動の一環として、現在「品川区内に農地」を合言葉に児童たちと小さな校内の畑やプランターを使い品川蕪の栽培を続けています。



NPOなすびの花
理事長 大塚 好雄



第十一回

品川蕪品評会

in 品川神社

令和六年十二月二十二日（日）

式次第 令和六年十二月二十二日(日)

観音町会 NPOなすびの花 理事 神沢英吾

- 1 品川神社様よりお祝いの(全盲参加)
- 2 開会宣言 主催者挨拶
NPOなすびの花 理事長 大塚好雄
- 3 オープニング講談 田辺二乃 師匠
- 4 来賓挨拶

品川区長 森澤恭子 様
品川区副区長 新井麻帆 様
品川区教育委員会 教育長 伊崎みゆき 様
品川第一地区町会・自治連合会 会長 金子正秀 様
江戸東京伝統野菜研究会 会長 大竹道彦 様

来賓紹介

品評会審査員選出(審査は12時00分から)

- 5 江戸を食する(品川汁ほか：無料)
- 和太鼓演奏 荻原流れ太鼓 様
- 6 クラフトビールお披露目式開始
(1)醸造企画説明 城南信用全庫 理事 卯月雄一郎 様
(2)醸造事業者挨拶 株式会社大島 代表取締役 大屋孝子 様
(3)醸造企画代表挨拶 城南信用全庫 理事長 林稔 様
(4)乾杯挨拶 品川区副区長 堀越明 様
- 7 品評会審査開始
シャンソン歌唱 田代美代子 様
- 8 審査発表・表彰式
- 9 閉会
NPOなすびの花 事務局長東品川(品)町会長 戸川五郎 様



品川汁



品川蕪の収穫を祝おう!

2006年、品川蕪をはじめとした江戸東京野菜復活の声を聞き、復興への活動に参加してきました。品川伝統野菜復活に尽力し、品川蕪食育活動も15年越しとなります。

地元小中学校や保育園、幼稚園、児童センター、区民農園などに種子を配布し、生育指導などを行ってきた品川蕪普及活動も、現在では区内30以上の小学校が参加し、品川蕪品評会は、1年を締めくくる暮れの風物詩となっています。おかげで品川蕪もすっかり定着し、地元商店とともに商品化を進め、多くの方が食する機会も増えています。これも関係者みなさま方のおかげと、この場を借りて感謝申し上げます。

主催：NPOなすびの花

後援：品川区

協賛：㈱マルダイ 塚好確商店
品川法人会女性部会
fun fun スクール実行委員会

協力：品川区学校地域コーディネーター
旧東海道品川強周辺まちづくり協議会
品川神社 城南信用金庫

品川蕪品評会の道のり

